

異業種から転進 同世代の社員と新たなチャレンジ

マックコーポレーションは創業者の大村雅昭氏が一九八四年に創業。もともと多くの人に楽器を」という理念を掲げ、弦楽器、管楽器に特化した専門商社として、今では広く認知されている。雅昭氏は一代限りと考えていたよ

うだが、社員の将来を考えるとやはり誰かにバトンタッチしなくてはと、今から四年前、当時は鳥根県松江市の法律事務所で弁護士として活躍していた次男の修二郎氏に白羽の矢が立った。

「経済学部を卒業して新日本監査法人で会計監査やコンサルティングの仕事をして四年、その後弁護士を目指し法律の勉強を三年、司法試験をパスした後、

法律事務所では地方都市で四年間勤務しました。まさか父親の会社を継ぐことになるとは夢にも思っていなかったのですが、同世代の社員が多いことも決心がついた理由のひとつで、やはり自分が継ぐべきだと考えました」

入社後は、商品課で商品知識を学び梱包作業も経験、総務では経理面の勉強、得意先まわり、海外のメーカーや仕入先との貿易業務など会社の一通りの仕事を約一年間かけて覚えた。

「全てが始めての経験でした。何しろ私には中学、高校の吹奏楽部で打楽器を経験したくらい知識が少なく、こと楽器に関しては社員全員が先輩で

した。一通り経験できたのは非常に役に立ったと思います。その後、三か月間オーストラリアに留学し英語をみっちり勉強しました。帰国後、貿易担当、営業担当それぞれの業務を経て、この九月に社長に就任しました」

同世代の同僚たちと共に業務に打ち込んできた修二郎氏だが、社長になった今の気持ちには当然変化がある。「改めて社長業の責任の重さを実感しています。それは何事においても社長の最終判断で会社が動いているという

ことです。前社長の偉大さを思い知らされますが、私が社長になり、これまで社長に判断を仰ぐだけだった社員

前社長もよく言っています。良くも悪くもうちの会社は大人しい。派手なことはしないし、無理せず、地道に誠実に営業してきました。会社である限り売上げを伸ばしたいと考えるのは当然ですが、そのために過当な競争はしたくない。海外のように音楽が生活の中に根付き、町の至る所で楽器を演奏する光景が見られるような、気軽に

楽器が始められる環境作りを提案し続けたのです。そのためにも、よりお求めやすい価格の楽器に力を入れていきたい。品質アップと価格の面では、常に課題を持って取り組んでいます」

今後は楽器店からの情報収集と、トレンドに対していかにスピーディーに対応できるかがポイントと語る。

「いろいろな楽器店とのお付き合いの中でより多くの要望を吸い上げ、それをどれだけ短期間で商品化することが出来るか、市場のニーズに素早く応えられる体力を常に備えていなければなりません。営業、商品、貿易の各セクションが一体となったサービスを

提供できるか。管楽器の「Jマイケル、弦楽器のカルロ・ジョルダノ」という二本の柱を中心に付加価値の高い製品を提案していくことで、当社の存在意義を発揮していきたいですね」

弁護士からの転進という、楽器業界では異色の経歴の持ち主。その手腕が大いに期待される。

(石原)



マックコーポレーション 大村 修二郎 氏

【プロフィール】

- 1974年9月28日 神戸市生まれ 38歳
- 1997年3月 関西学院大学経済学部卒業
- 1997年～2000年 新日本監査法人大阪事務所
- 2004年～2006年 弁護士法人みやこ法律事務所 浜田事務所
- 2006年～2008年 同 松江事務所
- 2008年5月 マックコーポレーション株式会社入社
- 2012年2月 専務取締役就任
- 2012年9月 代表取締役社長に就任

- 血液型=O型 ■趣味=旅行(温泉めぐり、食べ歩き)
- 家族=妻 ■お酒=弱い(飲み会の雰囲気は好き)
- 座右の銘=足るを知る

が自分の意見を述べた上で、相談にくるようになったのです。社員が自分自身でより深く考えるようになったことは、企画力を身に付ける上で大事なことです。私は年齢が近いこともあり、全ての部署の調整役としても機能しており、これは社風として活かしていきたいですね。